

論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（ 医学 ）	氏名	神人 蘭
学位授与の条件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 Detailed course of depressive symptoms and risk for developing depression in late adolescents with subthreshold depression: a cohort study (思春期後期の閾値下うつにおける抑うつ症状の推移とうつ病発症リスクに関するコホート研究)			
論文審査担当者			
主 査	酒井 規雄	印	
審査委員	田中 純子		
審査委員	丸山 博文		
〔論文審査の結果の要旨〕			
<p>閾値下うつは、抑うつ症状を有するがうつ病の診断基準を満たさない状態である。閾値下うつを有する割合は、10代中頃をピークにその後減少するが、うつ病の有病率は10代中頃から20代中頃にかけて増加することが報告されている。すなわち、思春期後期は閾値下うつからうつ病への臨界期で、うつ病発症リスクの高まる時期と考えられる。これまでの研究では、思春期から成人期にかけて数年単位の抑うつ症状の変化を評価した報告は散見されるが、より詳細に抑うつ症状の推移やうつ病発症を観察した研究はない。そこで、本研究では思春期後期の大学生を対象に、12ヶ月間の抑うつ症状の推移を詳細に観察し、閾値下うつがうつ病発症のリスクとなるかについて検討することを目的とした。</p> <p>対象は18歳から19歳の広島大学新入大学生である。入学前の健康診断で自記式うつ症状重症度尺度である Beck Depression Inventory 2nd edition (BDI-II) を実施し、その BDI-II の得点によって抑うつ症状低群 (BDI-II ≤ 10, n = 1918)、抑うつ症状中群 (11 ≤ BDI-II ≤ 17, n = 276)、抑うつ症状高群 (BDI-II ≥ 18, n = 87) の3群に分類した。抑うつ症状低群と中群からはランダムに対象を抽出し、抑うつ症状高群ではすべての者に連絡をとり、研究説明を実施した。研究説明会で研究参加の同意を得られた者に対して構造化面接 (Composite International Diagnostic Interview : CIDI) を実施し、過去12ヶ月間に大うつ病エピソードに当てはまる者、躁病・軽躁病エピソードの既往のある者を除外した。そして、抑うつ症状低群 (n = 66)、抑うつ症状中群 (n = 56)、抑うつ症状高群 (n = 54) の3群に対して、2ヶ月ごとに抑うつ症状を評価するため BDI-II を実施し、12ヶ月後には BDI-II の評価と CIDI によって大うつ病エピソードの有無を評価した。グループの BDI-II 得点の経時的な変化は線形混合モデルを用いて解析した。また、個人の BDI-II 得点がどのように変化するかを検討するために成長混合分布モデルを用いた。12ヶ月間での大うつ病エピソードの有無について3群での差を検討するためにフィッシャー検</p>			

定を用いて群間比較を行った。本研究は広島大学倫理委員会にて承認を受けた研究計画に従い、すべての対象に対して研究内容について十分な説明を行い文書にて同意を得た。

線形混合モデルを用いてグループの BDI-II 得点の推移を検討した結果、3 群で有意な交互作用はなく、群の主効果のみが有意であった。多重比較の結果から、3 群間で BDI-II 得点に有意差が認められた。成長混合分布モデルを用いて個人の BDI-II 得点の推移を検討した結果、3 つのクラスが算出された（抑うつ症状増悪クラス、抑うつ症状軽減クラス、抑うつ症状不変クラス）。抑うつ症状増悪クラスには 26 名、抑うつ症状軽減クラスには 81 名、抑うつ症状不変クラスには 65 名が含まれていた。これらのクラスのうち、抑うつ症状低群の 3 名(4.5%)は抑うつ症状軽減クラスに、63 名(95.5%)は抑うつ症状不変クラスに該当していた。抑うつ症状中群の 4 名(7.3%)は抑うつ症状増悪クラスに、49 名(89.1%)は抑うつ症状軽減クラスに、2 名(3.6%)は抑うつ症状不変クラスに該当していた。抑うつ症状高群の 22 名(43.1%)は抑うつ症状増悪クラスに、29 名 (56.9%) は抑うつ症状軽減クラスに該当していた。さらに、フィッシャー検定を用いて 12 ヶ月間の大うつ病エピソード発症について検討した結果、抑うつ症状高群の 3 名(5.8%)にのみ大うつ病エピソードの発症を有意に認めた。

以上の結果から、本論文は、思春期後期の閾値下うつからうつ病への発症過程を理解する上で重要な知見であるとともに、 閾値下うつを有する新入大学生のうち、抑うつ症状が増悪するものに対しては抑うつ症状軽減のため介入の必要性が示唆された。

よって審査委員会委員全員は、本論文が神人 蘭に博士（医学）の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。